

これってどう?

このコーナーでは、金融商品やサービスをクルー独自の視点で分析し評価していきます。

第 32 回 アクサ生命の外貨建て年金保険

2004 年 12 月 11 日号のクルーレポートで「外貨建て個人年金保険と外債投資」について説明させて頂いた。ここでの結論は、米ドル建て、あるいはユーロ建ての外貨建て年金保険に加入するより、直接、外国債券(特にゼロクーポン債)に投資したほうが有利である、というものであった。今回は、前回取り上げることができなかった、やや特殊な仕組みを持つアクサ生命の外貨建て年金保険について見ていきたい。

●基本年金原資額は保証

アクサ生命の外貨建て年金保険は 2004 年 12 月 1 日に販売開始となったものである。東京三菱銀行のみが販売する商品を「トリプレットプラス」と名付け、他の金融機関が販売するものには「アップサイド」という名称を付けている(今のところ、取扱いは佐賀銀行のみ)。

通貨は米ドル建てのみで、一時払いで 3 万ドル以上の保険料を払い込む。据置期間(=運用期間)は 10 年で、据置期間満了時の基本年金原資額が一時払い保険料の 100%～135%の間で保証される。保証率は契約時の 10 年米国債の利回りに基づいて毎月決定される。ちなみに、この 2 月 1 日が契約日の場合の保証率は 110%となっている。したがって 3 万ドルの保険料を払い込んだ場合は、10 年後に最低でも 3 万 3000 ドルの年金原資が保証される。

●日経平均に連動する追加年金

アクサ生命の外貨建て年金保険がユニークなのは、この基本年金原資額に、日経平均株価の上昇率に応じた年金原資が追加される点にある。

追加年金原資額の計算式は「一時払い保険料×連動率×日経平均株価の上昇率」となる。連動率は保険料

を払い込んだ翌月 15 日に決定される。したがって、この 1 月に保険料を払い込んだ場合の連動率は来月に決定されるので、現時点ではまだ分からない。ただ、この商品が既に販売されていたと仮定した場合の連動率が公表されているが、それによると、ここ数ヶ月の連動率はおおむね 35%程度である。そこで連動率を仮に 35%とすると、追加年金原資額は以下のようになる(一時払い保険料が 3 万ドルの場合)。

①10 年後に日経平均株価が 40%上昇した場合…3 万ドル×35%×40%=4200 ドル、②日経平均株価が 80%上昇した場合…3 万ドル×35%×80%=8400 ドル、③日経平均株価が 120%上昇した場合…3 万ドル×35%×120%=1 万 2600 ドル。このような日経平均株価の上昇率に応じた年金原資が、さきほどの基本年金原資額に追加されることになる。日経平均株価が上昇しなかった場合、あるいは下落した場合は、追加年金はゼロになる。

なお運用期間中に日経平均株価が一度でも 40%、あるいは 80%、120%以上上昇した場合は、10 年後の日経平均株価の上昇率がこれより低かったとしても、40%、80%、120%上昇した場合の年金原資(上記の計算額)の支払いが保証される。

以上の年金原資を元として、確定年金あるいは終身年金として受け取ることになるが、一括して受け取ることができる。

なお、据置期間中に不慮の事故で死亡した場合は、一時払い保険料の 50%が災害死亡給付金として上乗せして支払われる。ただし病気死亡の場合は上乗せ保障はなく、運用資金相当額が支払われるだけである(一時払い保険料相当額は最低保証されている)。

●ゼロクーポン債+インデックス運用のほうが有利

このように、アクサ生命の外貨建て年金保険は、米ドル建てで基本年金原資額を保証する安全性と、株式投資の収益性も兼ね備えた商品だといえる。しかし、こんな分かりづらい商品に投資するくらいなら、直接、米ドル建てゼロクーポン債と、日経平均株価に連動する ETF あるいはインデックスファンドに投資したほうが有利である。

たとえば残存約 10 年の米国ゼロクーポン国債の単価は、現時点で額面 100 に対して約 65 である。したがって 10 年後に額面 3 万 3000 ドル(=一時払い保険料を 3 万ドルとした場合の保証年金原資額)を受け取るために必要な米国ゼロクーポン債への投資金額は約 2 万 1500 ドル(=3 万 3000 ドル×65%)となる。

一時払い保険料 3 万ドルとの差額である 8500 ドル相当を ETF 等に投資したとすると、日経平均株価の上昇率に応じて、以下の金額がおおむね受け取れる。①10 年後に日経平均株価が 40%上昇した場合…8500 ドル×140%=1 万 1900 ドル、②日経平均株価が 80%上昇した場合…8500 ドル×180%=1 万 5300 ドル、③日経平均株価が 120%上昇した場合…8500 ドル×220%=1 万 8700 ドル。このようにアクサ生命の追加年金より、はるかに多くの金額を受け取れる。またアクサ生命では、日経平均株価の上昇率が 0%以下の場合には追加年金はゼロとなるが、ETF 等に直接投資する場合は下落率に応じた金額を受け取ることができる。

以上の計算は税金等を考慮していないが、税金等を考慮しても、ゼロクーポン債と ETF 等に直接投資したほうが有利になる。

要するに、保険会社等に運用をまかせるより、自分自身で直接運用したほうが余計なコストがかからず、有利に運用できるということである。

(クルー 目黒政明)